

令和 7 年度 千葉県における「すずき東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるスズキの漁業実態

千葉県におけるスズキは、東京湾内湾での漁獲がほとんどを占めており、海面漁業生産統計によると直近年の千葉県における漁獲量は全国トップとなっている。主な漁法はまき網や小型機船底びき網漁業となっている。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価において判断される中位以上の資源水準（小型機船底びき網漁業の CPUE（単位努力量あたり漁獲量）で 1 網当たり 3.8 キログラムを上回る資源水準）を維持する。

該当する資源管理協定

「すずき東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、7 漁協所属の約 80 名が、スズキを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、4 協定となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考	協定	備考
市川市		金田		富津		天羽	
船橋市		新木更津市		新富津			

本検証の対象協定

自主的取組

東京湾内湾の小型機船底びき網漁業では、関係漁業者により、内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
まき網漁業	休漁日の設定	漁協魚市場公休日	天羽
小型機船底びき網漁業	休漁日の設定	定期休漁（火・土曜日） 定期休漁（火・土曜日） ただし、各市場の臨時開場日前日は出漁することが出来る。	富津、新富津 市川市
	操業時間の制限、 漁具の制限等	漁具の制限：桁幅の制限 操業時間：内湾底びき網連絡協議会で資源状況等に応じて協議決定	全協定
刺し網漁業	休漁日の設定	漁協公休日	富津

協定に記載されている取組

上記取組の他、小型底びき網漁業では資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で決定した年末年始・お盆期間の休漁を実施している他、協定によっては自主的に網目の制限が実施されている。

(3) 資源管理の取組状況

本県の東京湾主要漁協におけるスズキの漁獲量は 2014 年以降減少傾向にあり、2024 年は 489 トンとなった（図 1）。県の令和 7 年(2025)度資源評価では、現在の資源動向は減少、資源水準は中位となっている（図 2）。協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、漁獲努力量は全協定で維持していると判断されたものの、漁獲量は全地区で減少、CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は 2 地区で維持、2 地区で減少と判断されている。また、魚価（単価）は 1 地区で維持、3 地区で低下と判断されている。

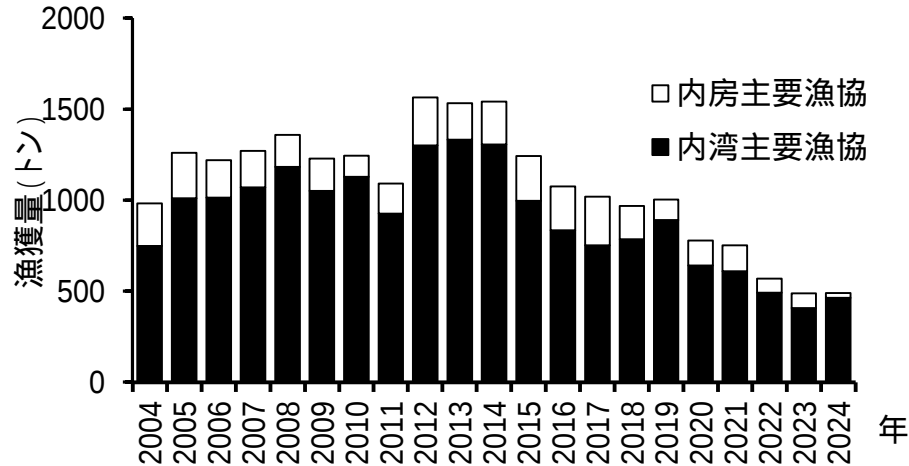


図 1 東京湾主要漁協におけるスズキ漁獲量の経年変化
(千葉県調べ)

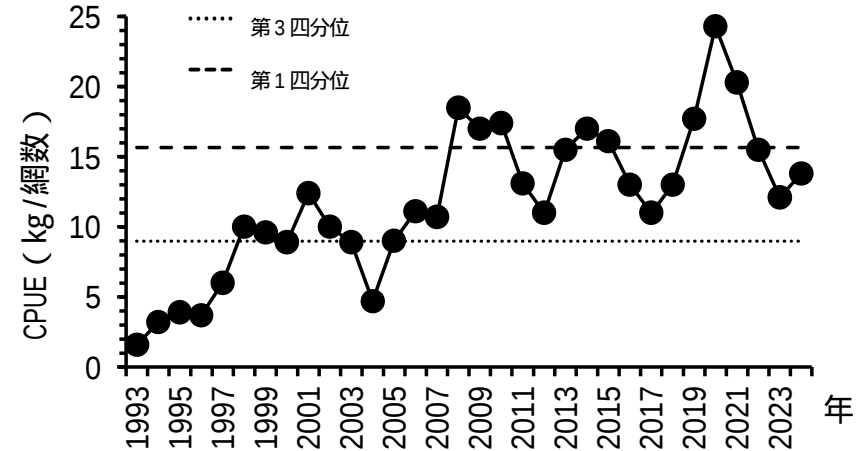


図 2 小型機船底びき網の標本漁船によるスズキの 1 網当たり漁獲量
(kg/網数 : CPUE) の経年変化 (千葉県調べ)

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

スズキは 2007 年以降中位水準以上を維持していることから、漁業者がこれまで実施してきた資源管理の取組が資源維持の一助になっていると考えられる。一方で、資源評価における資源動向は減少となった。また、自己点検では全協定で漁獲努力量は維持していると判断される中、漁獲量や資源が減少しているという実感から「取組の効果は感じない」とされており、効果を感じられない要因は海洋環境による影響と判断されている。実際に、協定参加者の主漁場である東京湾内湾は貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、海洋環境が漁獲量や資源の減少の要因の 1 つである可能性がある。現在、県では東京湾漁場環境改善に向けた一都二県の漁業者の取組の支援や、魚介類の産卵・生育の場である干潟の維持・保全を図るための覆砂等の取組を実施しており、漁業者による自主的な資源管理と共に推進していく必要があると考えられる。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。